

秋保の地に稲作文化が根付いて以来、
人々の想いは豊穡への祈りであり、
その根幹である水の確保が切実な願いであった。
その思いが「田の神」「水神」への祈りとなり、
戸神山は地域の信仰の山として、
参詣の径がたどられていった……

秋保 いってみっぺ

水神・戸神山

長袋の北西部に位置し、釣鐘型に突き出た形の良
い山、戸神山。

秋保郷で最も広大な耕地面積を持つ長袋穀倉地
帯の水田は、この山懐を水源とする沢によって潤わ
されています。その象徴となる戸神の神は「水神」の
意味合いが濃く、干ばつの時は雨乞いの祈祷が行わ
れたと言う歴史を伝えます。

標高504mの山頂からの眺望は素晴らしく、空気
の澄み切った冬季には遠く牡鹿半島まで遠望するこ
とができます。

穀倉地帯の信仰の対象であり、その風格が誇りとな
っている戸神山に、古くから歩かれた径や、かつて
はバスも通った旧道をつないでたどる登山と周遊の
旅にでかけてみませんか。

いってみっぺ 秋保 水神・戸神山

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)
秋保市民センター(022-399-2316)

雨乞いの故事伝わる、水神の山
いにしへの径をたどり、
展望の頂へ――